

この度は、●●ちゃんのことでは大変お世話になりました

●●ちゃんは18歳6ヶ月でしたので、食が細くなり、痩せてきたことはきっと老衰なのだろうと勝手な思い込みで、ただただ見守っていました

自転車か歩きでしか病院へ行けない我が家、9月上旬まで残暑が厳しくて弱っている●●ちゃんを外に連れ出す勇氣はありませんでした

ワクチン接種する度に体調を崩すのを見ている。完全室内飼、家族の在宅介護中でもあり、コロナ以前から自粛生活のような状況で、感染する病気にかかる環境から一歩離れたところで生活している●●ちゃんでしたので、ワクチンは2022年1月を最後に打つおらず、しかし病院はワクチン接種が条件での診察とあり、我が家には病院へ行くハードルが物凄く高かった中、往診で診てもらえることを知り、そもそも診てもらわなければならない数日間悩み、悩むということは診てもらいたいから悩むのだと自分の本心に気づけたことで、やっと電話することができました

18歳という年齢的なことから積極的治療の意思はありませんでした

しかし、もし積極的治療をすすめられたなら、1分も1秒でも長く生きてほしいと願っている身としては、断固拒否できる自信はありませんでした

積極的治療で手術が必要となったなら、老猫である●●んの心身の負担とリスク、入院も有り得るでしょうから●●んのストレスは相当なものになるのは目に見えていることもあり、やはり病院に行くことに後ろ向きな気持ちでした

そんな考えが巡る中で、往診へ電話して運良く当日診察して頂けることとなり、物凄く安心したので覚えています

元気な姿を知っているのですが、私の中ではもうダメなんじゃないか...との思いから、電話では泣きながら話したりしていたので、先生は危ないと覚悟されて来たようで●●んの姿を見、「目がしっかりしてるから大丈夫!」と言った頂けた言葉がとて心強く感じました

触診でお腹にシエリがあることがわかりましたが、先生も年齢的に積極的治療ではなく、現状維持に向けた治療を提案してくれました

病院への行き来と待ち時間がない自宅での診察、診察を終えるとすぐに自分のテリトリーに戻ることができることは、●●んにとって最小限のストレスで済んでいること、先生と私の治療の方向性が同じだったこともあり、往診に来て頂いて本当に良かったと思ひ、安心感を得ることができました

●●んはドライフードしか食べないこともあり、先生が将来的に食べられるものが限られてくるので、ウェットフードなら水分補給も

できること、お魚など食材の手作り方法などを教える頂き、
提案してくれました

これは私が往診にかからず一人で最期まで看取っていたなら
は、絶対に選択肢にウェットフードが入ってくることはありませんでした

で、●●ちゃんに試しにあげてみたところ、今まで絶対にウェットフードを
食べなかったのが嘘のように食べてくれたので、提案を受け
良かったと思いました

先生の決めつけや押し付けではなく、アドバイスとして色々な提
案をしてくれる姿勢は、患者である●●ちゃんには勿論ですが、
飼い主である私のことも同時にサポートして頂いていると感じられ
る、先生との出逢いに感謝の気持ちでいっぱいです

往診して頂く度に、その都度アドバイスを頂ける、自分では考えも
しなかったことを得られる機会を頂き、先生と向き合っ
きろんとコミュニケーションが取りれていることから信頼感も得られました

病院が決って悪いとは思っていませんが●●ちゃんの病院では
診て頂きたい先生は人気がある予約がなかなか取れず、私は先生の
指名はせずに予約していたので、手が空いている新人の先生に診て
頂くことがほとんどで、最後に診て頂いた先生は、同じ病院の人気
のある先生が、メインのご飯は引き続き療養食だけけれども、

人間と同じで猫だって楽しみは必要だからとおやつをOKに
してくれていたことをダメだと言いつけられしまい、今後は療養食のみ
でおやつは一切なしと話されたのが不信感となり、ならワク
チンも高齢だからもういいのかな...と、行くのをやめたきっかけ
になりました

コミュニケーションを病院と取りなかつた経験からか、往診を
受けているうちに私の中で、本当は往診を診て頂くことが必要と
している方に往診があることを知らせてもらうこと、往診がいずれ
必要となるかもしれない方の選択肢に往診が加わることを
願わずにいられますでした

なので診察時にもお伝えしましたが、往診を絶やすこと
なく続けたいと心から願っています

初めて往診して頂いたからとくなるまで4週間ではありましたが、
何でも相談でき、心強い味方になってくれた先生に支えられた時間も
ありました

先生から食事やトイレ等をメモするようにとのことでしたが、この4週間
今まで当たり前すぎて確認もしていませんでした●●の日常をしっかり
確認するようになり、●●の死期が近づいていることを日々感じられ
ていたことで、死を受け入れる覚悟を徐々にできたのかと思います

面白いのが逐一メモしているのを目の当たりにしているからなのか、私が●●ちゃんに背を向けてテレビを観ていると、水や食事を摂る際に、鳴いてお知らせをしてくれていたことです

●●ちゃん的には たまたま鳴いただけなのかもしれませんが、鳴き声で振り向くと 大半は水か食事を摂っているところでした

私の視線が●●ちゃんに向いている時は 特に鳴いている訳ではなかったのですが 気のせいなのかどうなのかは、●●ちゃんも口がきけないので本当のところはわかりませんでした。私は知らせをくれたのだと思えた出来事でした

住み慣れた自宅で、限られた時間の中で私と常に一緒に過ごし、苦しむことなく静かに呼吸が止まり、最期を迎えられたのは、日常の行動をメモしていたおかげで●●ちゃんとしっかり向き合えたことや、先生に支えられていたことで、最期の時は私一人で迎えました。心乱すことなく穏やかな気持ちで対応できたと思うので、●●ちゃんも安らかに逝けたのだと思います

今はまだ●●ちゃんが亡くなったことを嘆き悲しみ、急に喪失感に襲われている自分がいます

声を出して泣いたりしますが、ふと思うのです

いつもどんな時も私に寄り添ってくれていた●●ちゃんが この姿
を見てどう思うのかと...

私の覚悟が決まるまで頑張ってくれていたのに、結局は覚悟し
きれずに嘆き悲しむ姿に、

「あたし、ホント頑張ったんだよ！ でももっと頑張らなきゃいけな
かったの？ 本当は良く頑張ったね！ って褒めてほしいのに...

そんなに泣き暮らされたら心配で死んでも死にきれないよ...」
と、思っているんだろうな... と思うのです

なので、気持ちを切り替えなくては... と思うのです

●●ちゃんが死んだことを悲しんで生きていくのか？

●●ちゃんとの出逢い、家族となり一緒に暮らした18年間にた
くさんの幸せを届けてもらい、彩りある人生を送ったことを胸に
生きていくのか？

そう思い考えると、絶対的に後者なんですよ

それなら●●ちゃんも安心して思い残すことなく、あちらの世界に
行けるのだと思うのです

まだしばらくは難しいのですが、一人残されてしまった私だけが、

いつも笑顔絶やさずに生きていくことが●●さんの供養になると
思うので少しずつ気持ちを切り替えていきたいと思ひます

先生とはこれで縁が切れまひますが、本当に先生の存在は
とても大きく見守られていたと実感できたものなりました

私の勝手な意見なのですが、飼主もサポートして頂けるのは、これか
ら看取りを経験する飼主にとって病院とは違ひ形な往診は
とても頼りになる存在だと思ひます

なので先生、先生が長く往診を続けてくれることができると患者である
子たちにも飼主さんにも納得のいく看取りに繋がっていくと思ひ
るのでそれには先生の健康あることなですから、くれぐれも先生ご
自身のお身体を大切にしてください

それがお世話になつた私の先生への願ひになります

本当に、本当に、ありがとうございました

突然のお手紙、長文で失礼いたします